

## 「銀河パトロール (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

天の川は、我々の太陽系も属している銀河系小宇宙を、地球から(内側から)眺めた姿である。銀河系は台風のような円盤であるから、上や下の方向は天体(恒星や星雲)の密度が小さく、横方向の密度が大きい。天の川



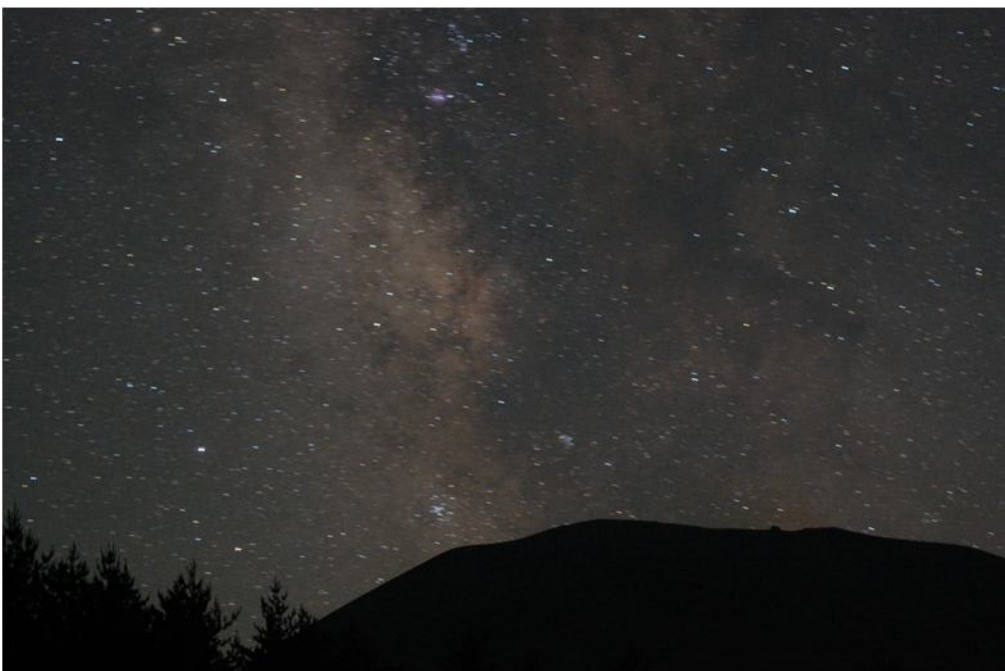
が天球上の一定の方向に見えるのは、この天体の密度の大きい方向が決まっているからである。特に銀河系の中心方向は、最も天体の密度が大きく、天の川も明るく見える。それは、およそ「いて座」の方向である。

### 「いて座付近の天の川」

この写真は肉眼での見え方に近い。左側のいて座(南斗六星)付近が、一番明るい。中央にさそり座が見える。

いて座は、夏の代表的な星座の一つである。関東地方では、地平線近くの低い位置にしか見えない。しかし、7月から8月は、肉眼での天の川観望が、最も期待できる時期といえる。具合がいいことに、いて座付近の天の川が子午線(真南)を横切る時、ほぼ垂直に立った状態になる。(正確にはわずかに左に傾いている)私は浅間山の真上を横切る天の川の写真を撮りたいと思い、晴れた夜に北軽井沢に「銀河パトロール」に出かけた。

天の川も、他の恒星と同じように、地球の自転によって「日周運動」をしている。浅間の真上にある天の川を撮影するには、時刻と撮影位置の計算が重要である。しかし、私は何も計算せずに、「勘」で移動した。



最初に行ったのは、自動車で行ける場所では、浅間山の山頂に一番近い、浅間園(鬼押し出し)である。ここは人家もなく、軽井沢や三原(孀恋村)からも遠いので、空の暗さは抜群で、天の川は実に美しく見えた。しかし、山に近すぎた。これでは浅間山か高尾山がわからない。もう少しパトロールが必要なようだ。

### 「浅間山と天の川」

孀恋村浅間園下 C. Tanaka